



Q いつになったらお友達と仲良く遊べるのでしょうか？……(2歳1ヶ月)

A おもちゃをとった、とらないでもめるのは、子どもに「これは自分のモノ」ということがわかってきたからです。こども自身に所有感覚があるからです。食事のお茶碗をみて、「これはママの」「これはパパの」などと指さしすることがありますが、これもモノと所有の関係がわかってきたからです。また二歳ぐらいになると「自分のモノ」と「自分以外の人のモノ」の区別も少しずつ、ついていきます。

しかし、二歳ではまだ「貸し借り」は難しいですね。自分の使っているものを誰かが持っていったらそれは「後で返ってくる、返してもらえる」のではなく、「なくなった、とられた」と思うってしまうのです。

三歳ぐらいになると「貸し借り」も理解できるようになりますが、まだ自分のほしい気持ちが優先するのでトラブルになってしまうことが多いです。

でも少しずつ我慢ができるようになりますので長い目で見てあげることが大切です。



Q ケンカをしてはいけないことをどう教えたらいいのでしょうか？…(3歳2ヶ月)

A

ケンカは「してはいけない」ものではありません。子どもはケンカや小さなトラブルの中から少しずつ人間関係を学んでいきます。

ケンカをしながら大きくなっていきます。成長の過程なのです。ケンカは子どもの発達の上でむしろ必要不可欠なものなのです。

遊んでいてケンカになりそうだからと親がいつも止めてしまえば「自分で物事を解決していく力」や「他の人との関係を調整していく能力」がいつまでたっても身につきません。

泣かせてしまった子には、よその子であれ、我が子であれ「おもちゃが欲しかったんだね。わかったよ。今度からきちんと言おうね」「たたくことはよくないよ。口で言えばいいからね。」などしっかりと話をして聞かせましょう。

また、泣いてしまった子にもよその子であれ、我が子であれなぐさめてあげましょう。そうしているうちに子どもも少しずつ人間関係を調整していく能力を自分のものとして身につけていくでしょう。

